

祭りだいが終わって、次は、ぼんおどりのときに、たいこをたたきました。一回目のぼんおどりのときは、なんともなかったけど、二回目のときは、手がいたくなってきました。三回目のときは、だんだんつかれてきました。

そして、四回目のときに。「まだあるのかなあ。」と思いました。毎晩みんなと福祉センターでいっしょけんめい練習をした成果がでたと思います。

六年生最後の夏祭りだったので、とてもいい思い出になりました。楽しかったです。

国際交流会のこと

6年 中尾 知世子

9月12、13日に、アイブラザで国際交流会が開かれました。私達は13日の午後1時から、ぜに太鼓をするために行きました。会場に行くと、交流会だけあって、外国人がたくさんいました。

私達は、テントの中に入って、ゆかたに着がえ、会場に行くと、ステージでは、大学生や高校生みたいな人たちが、いろいろな歌を歌っていました。その歌が終わるといよいよ次は、私達の番でした。

ぜに太鼓の先生に、「いつやるんですか。」と聞くと、「はい、ぶ台に上がって。」と言われ、私達は、ぶ台の上に上がりました。

そこは、今までとはちがい、石のぶ台だったので、足がいたかったです。そして、うって終わって下におりて、イスにすわっておばさんたちのを見てみると、外国人がたくさん上がって行って、先生に「子供たちも上がってきて下さい。」と言われ、上に上がりました。

そして私達は、ちらばってすわって、外国人の人といっしょに花がき音頭の2をやりました。私達がならっていたのは、花がき音頭の1だったので、さっぱり分かりませんでした。

それも終わって、いろいろな国の料理を食べました。いろいろな国の料理を売っている店では、各国の人が、あまり上手ではないけど、日本語を話していました。

私は、めったにできないことができてよかったと思いました。

9 2 秋祭りのお知らせ

10月17日(土) 18日(日)



17日 町内練り歩き
18日 白髭神宮

わが郷土を語る (その14)

中尾 佐之吉

----- 田中水門・「渡し場」と「せんだん」の樹 -----

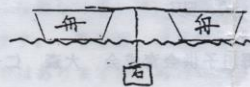
◎ 田中水門のこと

田中野田の区画整理事業で、「御南中」北の古い方の田中水門が平成2年全面的に改築された。新しい水門は鉄筋コンクリート造りで、間口も4、2mと以前より2倍以上大きくなった。また、門扉の開閉も電動式で全てが近代化されたわけである。しかし、ここでは改築される前の古い田中水門についてふれ、考えてみることにする。

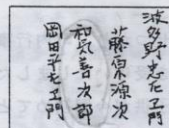
この古い水門も、明治45年に改築されている。そして、水門の大きさは、間口1、4m・高さ1、2m・奥行12mであり、基礎には3mくらいの松杭が打たれていたそうであるが、構造部本体は全て石造りであった。しかも、大きな石を使っていることで、その重も護岸に用いられたものを除いた本体部分だけでも60トン(米で1000俵分くらい)以上と私は推定するのである。

ところで、このような大量な石を、どこからどのようにして運んだのであろうか。陸路での運搬は、当時の周辺の道路事情等を考えると不可能である。したがって、瀬戸内海諸島のどこかで切り出された花崗岩を海から笹が瀬川をさかのぼって運ばれたに違いないかろうと思う。

では、大きな石をどのようにして? 市役所の専門技術職の方の話ですと、戦前の例では下図のように2艘の小舟の間に石を水中につるし(石も軽くなる)、上潮を利用して(当時は笹が瀬川も潮の干満があつた)運び、引潮に現場の浅瀬に沈着さす方法がとられていたそうである。



田中水門の工事の場合も、このような方法で石が運ばれたのではないだろうか。それにしても、今のような機材のなかつた当時としては、大変な作業であり大事業であつたろうと思うのである。



なお、この水門の礎石の一つに当時の人の名前が左のように刻まれていた。善次郎さんは土地の人で和氣輝明さんの4代前にあたる方だが、その他の人の名前は知られていない。また役割もよく分からない。

◎ 「せんだん」の樹と「渡し場」

水門の出口の北、現在ゴミ置場になっているところに、昔は大きな「せんだん」の樹があつた。自然に生えたものか、特別に植えたものかわからない。私が子どもの頃、夏には、川辺りで緑陰のあるここが、恰好の遊び場であつた。

また、ここが「渡し場」と言われ、対岸の今保へはここから舟で往来した。ただし、舟の出入りが定期的にあつたわけではなく、地元の人の依頼で、臨時にその都度、白石末広さんの先代の方がサービスで舟を出して下さっていたのである。私も子どものとき、親類へ行くのに何回か利用させてもらった。

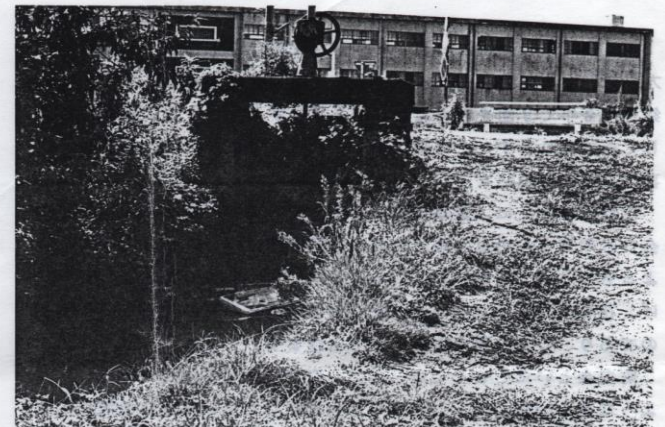
「せんだん」の樹は、昭和7年から始まった笹が瀬川改修工事で無くなった。(いまは、この附近では、中銀間屋町支店の東北隅に植わって

いるのが見られ、懐かしい思いをしている。)

「渡し」の利用も、大正末頃からの自転車の普及に伴い自然に止んでしまった。また、戦後「御南中」西へ通学橋もできた。しかし、今でも土地の人が白石さん宅を、「渡し場」と言う代名詞で呼んでいるのは、往時の名残りでである。

(付記) 平成2年2月改築「田中水門」の概要

構造 間口4.2m 高さ1.9m 奥行12m 鉄筋コンクリート造り
総工費 2600万円



旧田中水門、バックは御南中

< 会員名簿の変動、訂正 >

	世帯主	地名	地番	電話	職業	備考
訂正	林 栄有季	田中			中村建設	氏名訂正 7組
転入	新免 喜志男	"			"	2組
"	矢引 敏介	"			会社員	2組
"	和田 定	"			"	藤田光俊転出 8組
"	魚重 康吉	"			"	宇野忠転出 7組

編集後記

台風で開催が心配された夏祭りも、盛会のうちに終わりました。記事にも見られるように、子供たちにとって夏休みのいい思い出となったようです。

9月も末になると、時折ひやっとした北風が感じられるようになりました。夏の疲れがでてくる時期でもあり各々ご自愛のほどお祈り申し上げます。

編集委員一同